

## 第7回吹田市総合計画策定委員会 議事概要

- 1 日 時 平成24年5月29日（火） 午前11時から午前11時50分まで
- 2 場 所 吹田市役所高層棟4階 特別会議室
- 3 出席者 別紙（出欠一覧）参照
- 4 配付資料 (1) 資料-1 総合計画のあり方の検討に関する検討について  
(2) 資料-2 総合計画策定委員会作業部会の運営について  
(3) 資料-3 総合計画見直しの概要
- 5 議事内容

(1) 総合計画のあり方に関する検討について

事務局は、総合計画のあり方に関する検討の内容について、資料-1及び参考資料を用いて説明を行った。

【質疑応答・意見・委員長等からの指示事項】

ア 2ページ

意見1：「絆」という表現が頻繁に使われているが、主体間の絆というのがしっくりこない。  
各団体間にあるのは、「連携」や「関係」を深めるという言い方になるのでは。

指示1：文言については、整理すること。

イ 7ページ

質問2：「2. 協働の進化」について、左図の破線の意味は、これまで各主体間の協働はなかったという評価か。

回答2：各主体間の協働がこれまで全く無かったという考え方はしていない。各主体間のつながりを今後もっと強めるという主旨で、右図には実線にしてある。

質問3：「2. 協働の進化」右図の実線について、具体的には、どのような事例を想定しているのか。例えば、大学と企業が連携して、商品を開発しているような公共性のないことも総合計画で位置付けるのか。

回答3：公共性のあるものを目的として進めるのが、前提である。

質問4：これまでの協働とこれからの協働の違いは何か。

回答4：協働自体は、これまでと変わらない。行政の立ち位置が変わっている。行政は、各主体間のつながりを強めるようにする。

質問5：各主体が協働の図式を見て、驚かない内容のものか。

回答5：各主体の協働の意識が右図のようになっていないのが現状だと思う。これからの目標として、掲げていくものである。

意見6：これまででは、行政に寄りかかっていたが、行政が入らなくても各主体間で成り立つものもあると思う。そういう意味では、この図式は少し合っていないと思う。

質問7：部長マニフェストと総合計画はどのような位置付けになるのか。

回答7：予算と人に関する権限を下ろしていき、庁内分権を進めていくという中で、予算は枠配分方式を財政室等と検討している。一定与えられた予算の中で、作成された計画に基づいて議会で議決後、総合計画に基づいた実施計画を作成していく。PDCAサイクルで考えていく。

意見8：何年先を目標にするのかというリンクが難しいと思う。

回答8：総合計画の最終年度は、平成32年度で、あと7年間となり、一定方向性にとどめて、あとは各分野別計画または、実施計画で表すことになる。実現出来る内容か、踏まえて見ていくことになる。

質問9：協働の図の中に「議会」が入っていないが、議会との関係性は。

指示9：議会との関係性を整理すること。

## (2) その他

事務局は、当面の予定及び見直しスケジュールと中間報告について、資料-2、資料-3を用いて説明を行った。

### 【質疑応答・意見・委員長等からの指示事項】

指示1：当面の進め方について、了解をいただきたい。6月4日の経営戦略会議までに、提言があったら事務局まで伝えていただきたい。

## 1 委員

	構成委員	第5回 (4/16)	第6回 (5/10)	第7回 (5/29)
1	富田副市長		×	×
2	山中副市長			
3	清多水道事業管理者			
4	牲川病院事業管理者			
5	西川教育長			
6	赤野危機管理監			
7	川下総務部長			
8	太田行政経営部長			×
9	木下市民生活部長			
10	西山人権文化部長			
11	平野まち産業活性化部長			(代理) 中江次長
12	赤松こども部長			
13	門脇福祉保健部長			
14	羽間環境部長			
15	竇田都市整備部長	(代理) 松本室長	(代理) 野上次長	(代理) 松本室長
16	森道路公園部長	(代理) 石橋次長		
17	重井下水道部長			
18	原田会計管理者			(代理) 榎井室長
19	松中消防長		(代理) 村上次長	
20	川上水道部長			
21	坂田市民病院事務局長			×
22	徳田教育総務部長			
23	梶谷学校教育部長			
24	上原教育委員会事務局理事			
25	原地域教育部長			

24

23

22

## 2 事務局

1	美馬次長			×
2	井尻次長			
3	春藤室長			
4	木下総括参事			
5	岸本参事			
6	津田主査			
7	十川係員			
8	稲見係員			

8

8

7